

公害の原点ミナマタから伝えたいこと

原発避難計画を考える水俣の会 代表 永野隆文

3月29日の朝刊。川内原発の避難計画の策定が困難だという指摘に対して、安倍首相が「できないという後ろ向きの発想ではなく、どうすれば地元の理解を得られるかが重要だ」と述べた、とありました。福島で事故で避難をして、故郷を捨てざるを得なかったことの辛さや、放射能の計り知れない被害や、数々の困難について思い至らない人が国のリーダーであることにとっても腹が立ちました。

川内原発は再稼働第1号になりそうです。川内から40キロの水俣は、鹿児島県出水市からの避難者の受け入れ先になっています。でも、状況次第で、水俣の人たちも避難するでしょう。受け入れどころではない、避難する国道3号線の渋滞は？要援護者は？スクリーニングは？福祉施設の入居者はどうなるか、とても大変なことだらけなのに、国は各自治体に発想を転換して避難計画を立てろというのです。

水俣は、福島原発事故以来、市民や水俣病被害者が様々な形でフクシマとつながってきています。それぞれが、水俣病の教訓を語りました、風評被害へのアドバイスをしました、でもそれでは足りない。悪いものは、元から断たなきやダメ、そのことを、ミナマタから発信することは公害の原点の地に住む私たちに課せられた使命だと思えます。

4月5日、美浜の会やグリーン・アクションなど、いろんな地域の人が水俣に集まり、川内原発再稼働を止めるための寄合をしました。福島事故で被災した人たちの悔しい思いに、言葉では表せないものがきに連帯するために。交流会で私は「命を懸けて再稼働を止める」と思わず言ったのですが、日ごろから「命が一番大事」と言っている私にそういうことを言わせる危機的な状況があります。

4月16日、「原発避難計画を考える水俣の会」が結成され、4月23日、水俣市防災危機管理室が市民23名の出席のもと、説明会を開催。疑問は16項目60点を越えました。

原発事故時には、出水市から7000人近い人が避難してきます。出水市での住民説明会も4回開かれ、多くの出水市民が不安や再稼働反対を訴えました。5月2日には私たちも参加し、「市民の安心安全を守る立場の行政が、今日の説明会で、私たちを一層不安にさせた。再稼働があるから策定困難な計画を立てなければならない。原発の事、行政の皆さんも一緒に考えていきましょう」と発言しました。福島事故の現状を見れば、水俣市も飯館村と同じ状況が考えられます。受け入れだけでなく、独自の避難計画も必要になります。想像力が求められています。今更原発を動かすなんて無謀なことです。

5月8日、水俣市の2回目の説明会。水俣市当局は、私たちの疑問に答えるため、出水市や、鹿児島県阿久根市の避難者を受け入れる予定の水俣北隣の津奈木町などを訪問しています。しかし、福島事故の現実に学んだ対応とは程遠いものがあります。机上のプランを確認しているだけの動きに、私たちの不安は一層増しています。当会では、以下のことを要望しました。熊本県主催の説明会を水俣市で開催すること、避難計画の専門家・上岡直見さんの学習会を水俣市が主催すること、3回目の水俣市説明会の前に、担当者は福島の実状を見て聞いてくること、両市の福祉施設へのアンケート実施に行政が協力することなどです。

国のエネルギー政策を見る限り、福島ことは、何でもなかったことにされています。故郷を捨てさせられたことの重さを、想像できない人たちが、この国を支配しているかと思うと、なにくそ！という思いに駆られます。

過去のいきさつはどうであれ、市民が力を合わせないと原発は止まらない。推進側は、力を結集しています。今後は、避難計画の中で、特に、要援護者の避難問題は重要だと、水俣市に認識してもらい、土台無理な計画だと表明してもらおうことを目指して活動していきます。